

学校だより(いしがき)

第23号 令和3年11月30日
文責: 校長 石橋 節二 TEL94-2038

学校教育目標

「ふるさと中原を担う生徒の育成」

～自律と共同を通して～

今回の学校だよりは、火災想定避難訓練、昭和28年西日本大水害(28水)、人権週間のお知らせ、故事成語⑫「助長」、「身も蓋もない」の意味とは、新聞難解語句、12月～3月の主な行事予定についてです。

○火災を想定した避難訓練

11月17日(水)に、全校生徒対象に北棟1階理科室から火災が発生したと想定し、避難訓練を実施しました。避難訓練の目的は、万が一の場面に遭遇しても、生徒の安全・安心を確保し、落ち着いて行動できるように、避難経路や避難場所、どのような心がけが必要かを理解させることです。

この日は、西消防署員の方を講師としてお招きし、避難する際の注意事項など専門家の立場から話をいただきました。特に、①放送をしっかりと聞く、②お…おさない、か…走らない、し…しゃべらない、も戻らない、ち…近づかない、③けむりを吸わないよう低い姿勢、④窓はしめる(鍵はかけない)、⑤日頃から避難経路をしっかりと覚えておく、などについて話をされました。

本日の訓練が、火災だけでなく、その他の災害に対しても応用し対応できるように、いろいろなケースを想定しイメージ化してほしいと思います。



【 消防署からの講話の様子 】

○昭和28年西日本大水害(28水)

今から68年前の1953年(昭和28年)6月下旬、大雨によって筑後川沿いの堤防があちこちで決壊し、佐賀平野のほとんどが洪水に見舞われました。写真は、その時の千栗土居の決潰口(現在の北茂安 Mrマックス付近)の様子です。この洪水で、みやき町役場(旧北茂安庁舎)の南側はほとんどが水没したとされています。ちなみに、北茂安体育館(江口地区)には、洪水でこの位まで水没したという目印がつけてあり、場所によっては軒上まで水に浸かったところもあったそうです。

以前も紹介しましたが、筑後川は昔から日本三大暴れ川の一つにあげられていました。その原因は、流域面積(降った雨が流れ込む範囲)の広さと有明海の満潮時の水はけの悪さで、特に筑後川中流域で雨水が停滞してしまうからとも言われています。

そこで、成富兵庫茂安は、川向かいの久留米藩よりも頑丈な堤防(千栗土居)を造ることで、佐賀平野を洪水から守ろうとしました。また、明治政府は、蛇行していた河川を掘削工事によって直線化することで筑後川の流れをスムーズにし、洪水を防ごうとしました。



石貝欠潰口(北茂安村史より)



○人権週間のお知らせ

第二次大戦後、国際連合で世界人権宣言が採択されました。その採択された12月10日を最終日とする「**人権週間**」(12/4~12/10)が設定され、各学校いろいろな取組が行われています。本校では、「人権」について学習を深め、**いじめ**や**差別**を許さない集団作りや助け合い・励まし合いができるような仲間意識を育てるために、毎年、講演会や人権作文紹介等を行っています。

今年は、実行委員による人権作文優秀作品朗読や人権標語(いじめ防止標語)の作成、また、12月9日(木)には人権集会を行います。今年の人権集会は、実行委員が**言葉遣い**や**SNS利用**について事前アンケートを行い、その結果をもとに、中原中学校の現状と課題について生徒相互に考える機会となるように計画をしています。

○故事成語⑫

助長(じょちょう)

【意味】 援助して早く完成させようとして、かえって逆効果になり、害を与えること

【由来】

孟子(もうし)が弟子(でし)に、ゆったりとした精神を育てるためには、心の成長にしたがって育ててゆくべきだとして、次のような話を弟子にしました。

「宋(そう)の国の農夫が苗(なえ)の成長が遅いのを待ちきれず、茎を引っ張って伸ばしたために、みんな枯れてしまった。」このことから、この語ができました。

○「身も蓋もない」の意味とは？

「**身も蓋もない(みもふたもない)**」は、ものごとを率直に表現しすぎるあまり風情も情緒も感じられないという意味の慣用句です。それを言われては返す言葉が見つからないとか、それをやってしまったら今まで積み上げてきたものが台無しになるというような言動に対して、「身も蓋もないことを言う」「身も蓋もない話」「こう言ってしまうえば身も蓋もないが」のように表現します。

これは、「もっと別の言い方があるだろう」と伝えたいときに使う婉曲(えんきょく)表現です。明け透けに言う相手に対して「それは言い過ぎだろう」「みんな思っても言わないだけなのに」と返せば身も蓋もない言葉の応酬になってしまいますが、やんわりと「身と蓋」に例えることで雰囲気や和み、その場が丸く収まります。

○新聞難解語句

失笑：本来笑うべきでない場面で、こらえきれずに思わず吹き出すこと。使い方が「あきれる」方向になる可能性あり。

礼賛(らいさん)：すばらしいものとして、ほめたたえること。また、ありがたく思うこと

雨模様(あめもよう)：本来は雨の降りそうな曇り空の様子。あまもよう。「雨模様の雲」。近年は「現に雨が降っている」意にも使うようになった。

流れに棹さす：物事に勢いをつけること。本来、流れを止めるという意味では使わない。

憮然とする：失望や落胆、驚きのあまり、思わずぼんやりするさま。むっとしているとか腹を立てている様子ではない。

尾羽(おは)打ち枯らす：《鷹(たか)の尾羽が傷ついてみすぼらしくなるところから》落ちぶれてみすぼらしい姿になる。

気骨(きぼね)がおれる：あれこれ気を使って精神的に疲れる。気疲れする。気づかい。気苦労。

気骨(きこつ)のある人：困難にも屈せずに信念を貫こうとする強い心。気骨(きぼね)とは別語。

上意下達(じょういかたつ)：上位の者や上層部の命令・意向を、下に伝えること

○12月~3月の行事予定 ※太文字は、3年生入試関係分

- ・1,2年生県学習状況調査 12/1(水) 2(木)
- ・2学期終業式 12/24(金)
- ・3学期始業式 1/11(火)
- ・**県内私立高校 推薦・前期試験 1/20(木)**
- ・**県内 私立高校 後期試験 2/3(木)**
- ・**県立高校 特別選抜試験 2/8(火)**
- ・**県立高校 一般選抜試験出願 2/21, 2**
- ・1,2年生学年末テスト2/22(火) 24(木) 25(金)
- ・**県立一般選抜試験 3/8(火)、9(水)**
- ・第75回卒業証書授与式 3/11(金)
- ・**県立高校一般選抜試験合格発表 3/15(火)**
- ・令和3年度修了式・職員離任式 3/24(木)